

(4) 生物

ア 植物

実施区域周辺の現存植生図は図 2-2-20 に示すとおりである。

実施区域周辺は山地となっており、植生はオニシバリ-コナラ群集、ススキ群団 (VII)、オオシマザクラ植林、アカメガシワ-カラスザンショウ群落が認められる。

「第 2 回自然環境保全基礎調査」(1981 年 環境庁) の特定植物群落調査によると、実施区域周辺には表 2-2-35 に示す特定植物群落指定されている。特定植物群落の位置は図 2-2-21 に示すとおりである。なお、大松寺林については「三浦半島の自然環境 -5 万分の 1 自然環境図説明書- 横須賀市自然博物館編 1991 年 横須賀市自然博物館」においても報告されている。

表 2-2-35 特定植物群落調査結果

番号	件名	集約群落名	選定基準	相関区分	面積 (ha)
11	天神島の塩生植物群落	砂丘植生 海岸風衝低木群落	B, D	暖温帯植生	0.02
71	大松寺林	伐跡群落 コナラーオニシバリ群集	E, H	暖温帯常緑 広葉高木林	0.39

特定植物群落選定基準

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

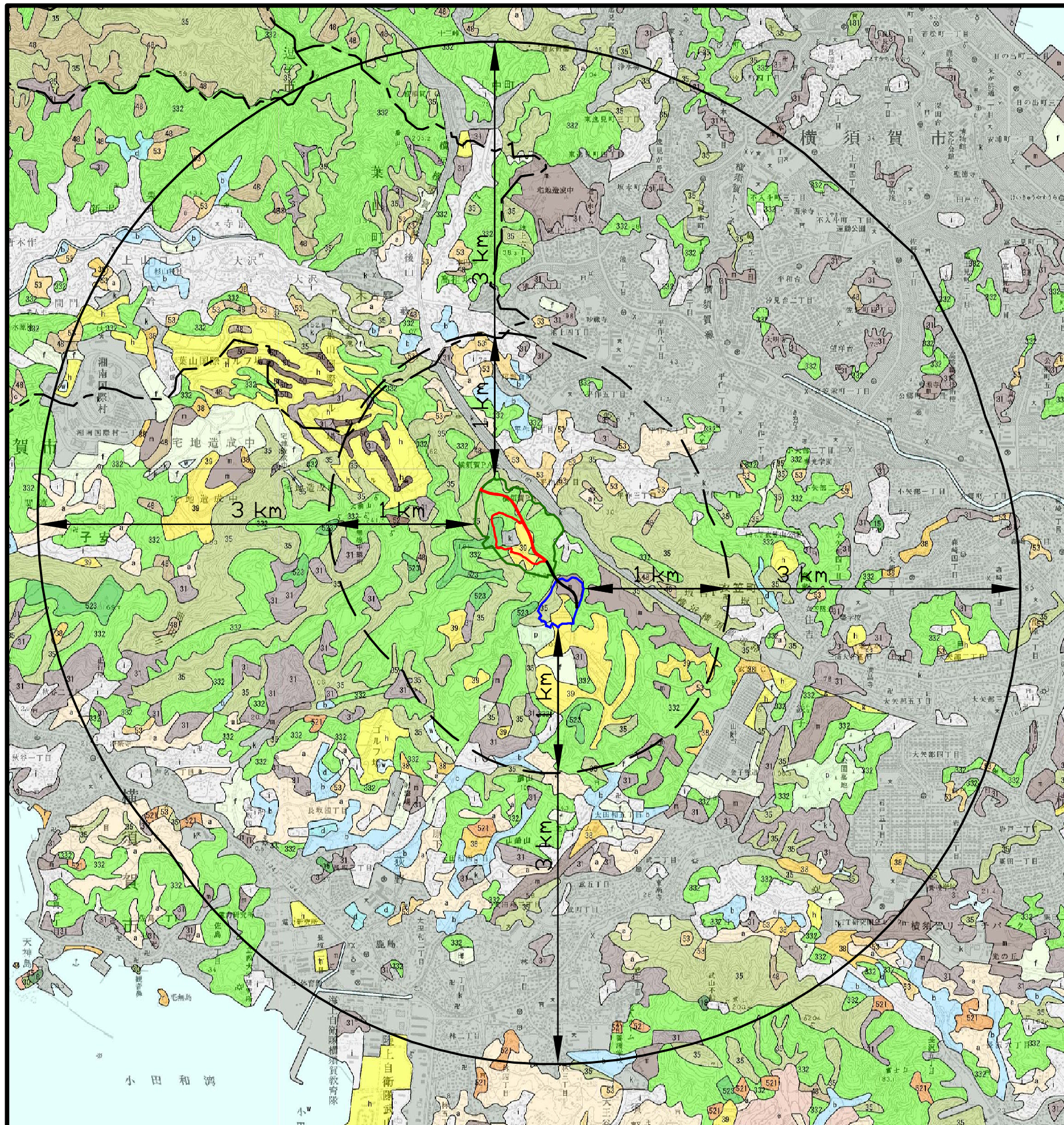
D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または群落または個体群

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの (武蔵野の雑木林、社寺林等)

H：その他、学術上重要な植物群落または個体群

注) 番号は図2-2-21に対応する。

出典：「第2回自然環境保全基礎調査」1981年 環境庁



凡例

- 15 ヤブコブジ・スダジイ群集
- 18 タブナ群落
- 181 イデ・タブナ群落
- 22 ケキ群落(VI)
- 30 マサキ・トバラ群落
- 31 シ・カシ二次林
- 332 オシハリーコナ群落
- 35 アカカシ・シロカスザンショウ群落
- 38 低木群落
- 39 ススキ群団(VII)
- 41 ヨシクラス
- 46 イシキ・クハシ・ヨリスギ群落
- 48 スギ・ヒノキ・サラシナ植林
- 50 クロマツ植林
- 51 外国産樹種植林
- 52 その他植林
- 523 オシマダクラ植林
- 521 マテバシ植林
- 53 竹林
- h ゴルフ場・芝地
- f 路傍・空地雑草群落
- c 放棄畑雑草群落
- e 果樹園
- a 畑雑草群落
- b 水田雑草群落
- d 放棄水田雑草群落
- k 市街地
- i 緑の多い住宅地
- p 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
- L 工場地帯
- m 造成地
- w 開放水域
- r 自然裸地

- : 廃棄物処理施設
(宅地の造成を含む)
- : 宅地の造成
(残置森林(最大範囲))
- : 発生土処分場
- : 市町界
- : 新設搬入道路
- : 既設改修道路

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典: 「第6回・第7回自然環境保全基礎調査
植生調査 2次メッシュ情報(横須賀
・秋谷・浦賀・鎌倉)」
生物多様性センターホームページ

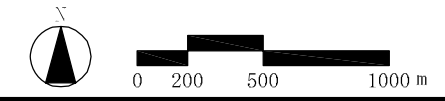
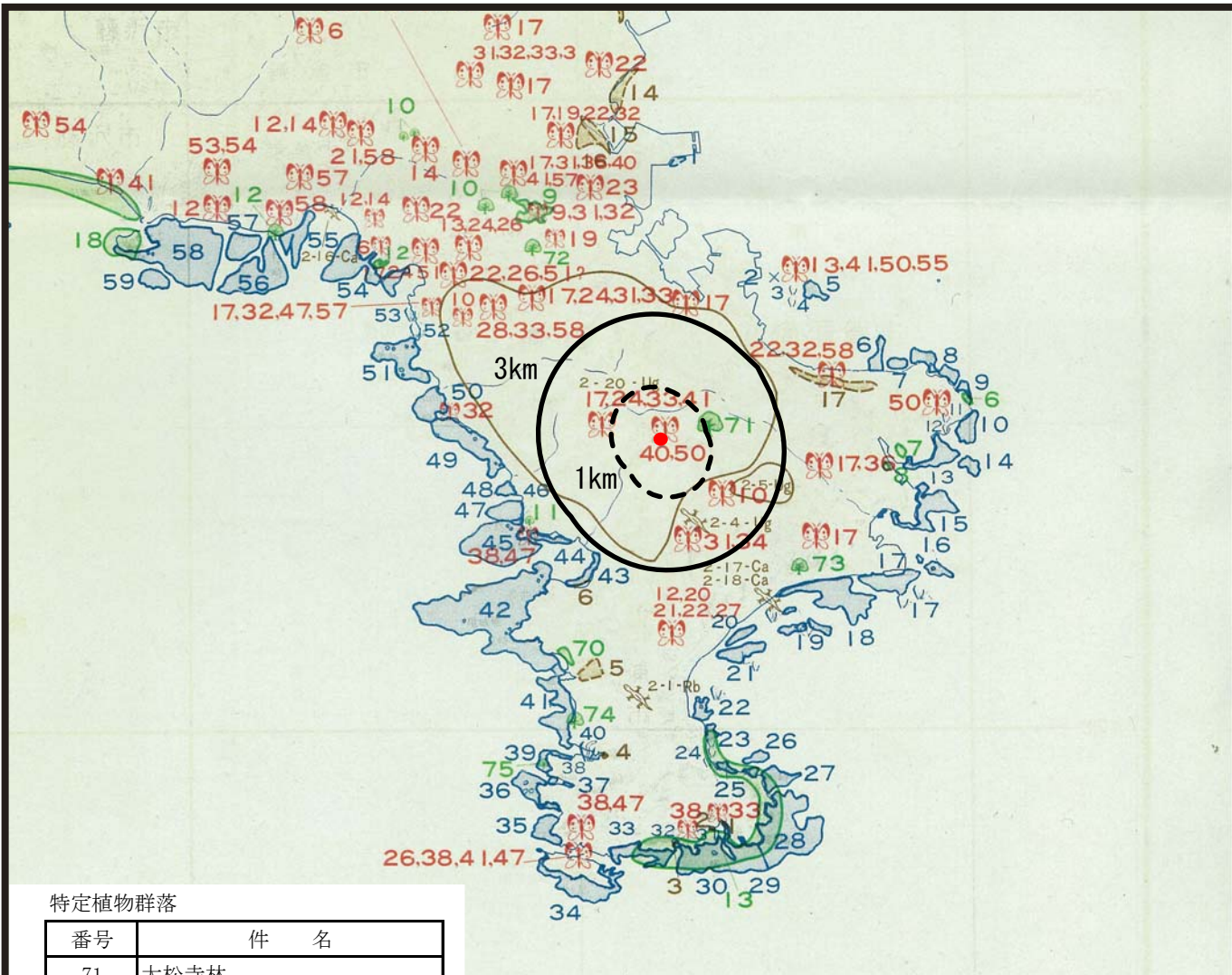


図2-2-20 現存植生図

(空白)



特定植物群落

番号	件名
71	大松寺林

昆虫類

番号	種名
10	ゲンジボタル
17	オニヤンマ
24	アカスジキンカメムシ
31	アオバセセリ
33	オナガアゲハ
34	ミヤマカラスアゲハ
40	スミナガシ
41	アサギマダラ
50	ヒラタクワガタ

両生類・は虫類

種略号	種名
Ug	トウキョウサンショウウオ

注)1 両生類・は虫類の図上分布位置の脇の数字及び記号は、「地図番号」-「対照番号」-「種略号」を意味し、「動物分布(両生類・は虫類)調査報告書の調査票」と対照できるようになっている。

2 実施区域の周囲3kmの範囲で生育・生息する特定植物群落、昆虫類、両生類・は虫類を示す。

凡 例

●	: 実施区域		
○ (with plant icon)	特定植物群落	○ (with frog icon)	藻場 { (現存)
○ (with insect icon)	両生類・は虫類	○ (with X)	(消滅)
○ (with fish icon)	淡水魚類	○	国立公園
○ (with butterfly icon)	昆虫類	○ (with hatched)	国立公園
○ (with X)	干潟 { (現存)		
	(消滅)		

出典: 「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」
昭和56年発行 環境庁

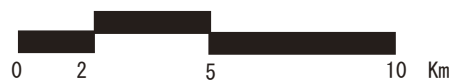


図2-2-21 動植物分布図

また、植物については、「第3回自然環境保全基礎調査」(昭和59年度 環境庁)、
「第4回自然環境保全基礎調査」(平成2年 環境庁)、において、それぞれ「みどりのたより No.2」(昭和60年9月 環境庁)、「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」(緑の国勢調査協力会)に身近な生きもの調査としてまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された植物を表2-2-36に示す。

表2-2-36 既存資料で確認された植物種

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
トクサ	スギナ	第4回		
ヒルガオ	セイヨウヒルガオ	第3回		
	ヒルガオ・コヒルガオ	第3回		
ゴマノハグサ	オオイヌノフグリ	第4回		
ゴマノハグサ	タヌキモ類	第3回	フサタヌキモ：絶滅危惧ⅠB類 (EN) ノタヌキモ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ミカワタヌキモ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ヤチコタヌキモ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) イヌタヌキモ：準絶滅危惧 (NT) オオタヌキモ：準絶滅危惧 (NT) ヒメタヌキモ：準絶滅危惧 (NT) タヌキモ：準絶滅危惧 (NT)	イヌタヌキモ：絶滅危惧ⅠA類 タヌキモ：絶滅危惧ⅠA類
オミナエシ	オミナエシ	第3回、第4回		
キキョウ	キキョウ	第3回	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧ⅠA類
キク	セイタカアワダチソウ	第3回、第4回		
	アカミタンポポ	第3回、第4回		
	オオブタクサ	第3回		
	シロバナタンポポ	第4回		
	セイヨウタンポポ	第3回、第4回		
	センダングサ	第3回		
	タチアワユキセンダングサ	第3回		
	ハルジオン	第3回		
	ヒメジョオン	第3回		
	ヘラバヒメジョオン	第3回		
在来タンポポ	第3回、第4回			
ナデシコ	オランダミミナグサ	第3回		
	ミミナグサ	第3回		
キンボウゲ	ニリンソウ	第3回、第4回		
スイレン	コウホネ類	第3回	シモツケコウホネ：絶滅危惧ⅠA類 (CR) オグラコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ネムロコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) オグラコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) オゼコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ヒメコウホネ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ヒメコウホネ：絶滅 コウホネ：絶滅危惧ⅠA類
バラ	ミズヒキ	第4回		
カタバミ	ムラサキカタバミ	第3回		
ブドウ	ヤブガラシ	第3回		
キブシ	キブシ	第4回		
ウリ	アレチウリ	第3回		
	カラスウリ	第4回		
アカバナ	アレチマツヨイグサ	第3回		
	オオマツヨイグサ	第3回		
	コマツヨイグサ	第3回		
ヒルムシロ	エビモ	第3回		
ユリ	カタクリ	第3回、第4回		絶滅危惧ⅠB類
	チゴユリ	第3回		
	テッポウユリ	第3回		
ヒガンバナ	ヒガンバナ	第4回		
ミズアオイ	ホテイアオイ	第3回		

注) タヌキモ類、コウホネ類の確認種は不明である。

在来タンポポとはカントウタンポポ、カンサイタンポポ等を示し、これに対しセイヨウタンポポ、アカミタンポポ等は外来タンポポとなる。

環境省レッドリスト：「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 - レッドデータブック - 植物 I 環境省編」

「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 - レッドデータブック - 植物 II 環境省編」

神奈川県レッドデータブック：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」

出典：「みどりのたより No.2」昭和60年9月 環境庁

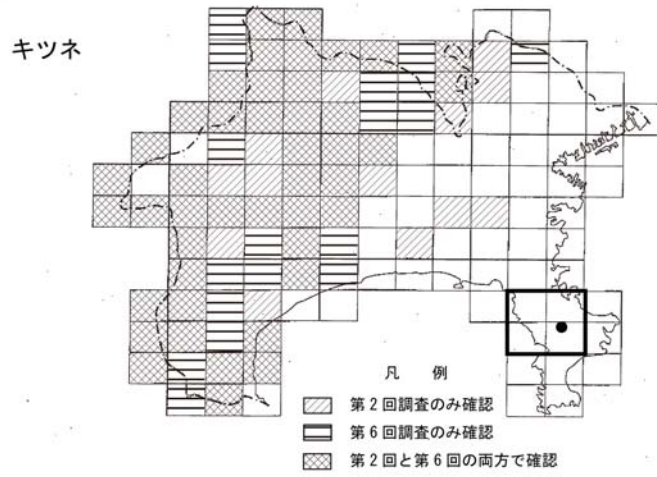
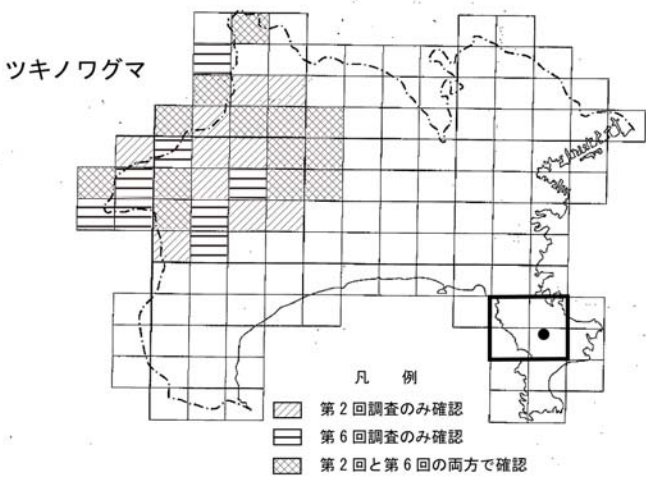
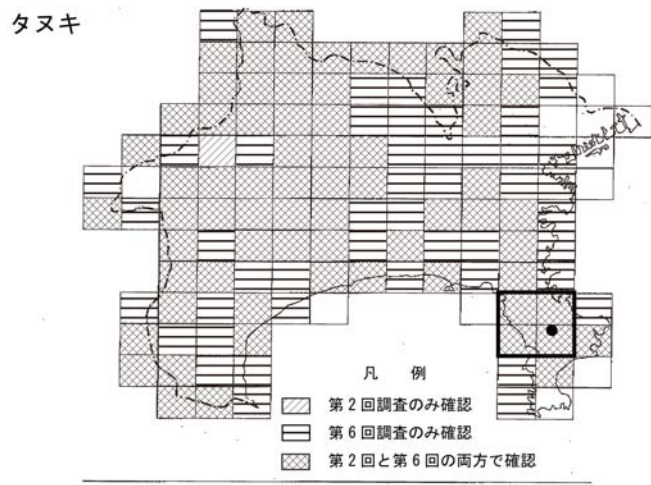
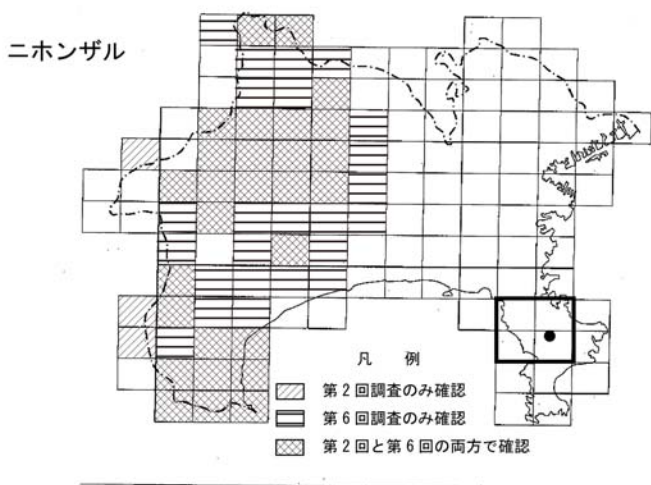
「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」 緑の国勢調査協力会

イ 動物

(a) 哺乳類

「第2回自然環境保全基礎調査 神奈川県動植物調査分布図 神奈川県」(昭和56年、環境庁)及び「第6回自然環境保全基礎調査」(平成15年～17年、環境省)では、図2-2-22(1/2)～(2/2)に示すとおり、哺乳類としてニホンザル、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、アナグマ、ニホンイノシシ、ニホンジカ、カモシカ、を調査対象としている。

実施区域を含む10km四方の範囲ではタヌキ、アナグマの生息が記録されている。

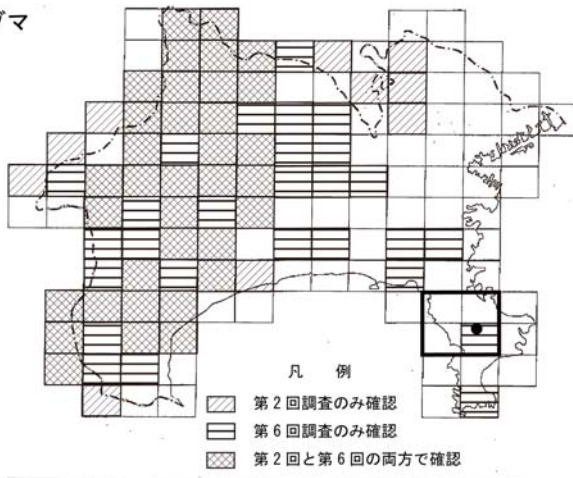


図中の●は実施区域、 は実施区域周辺が含まれるメッシュを示す。

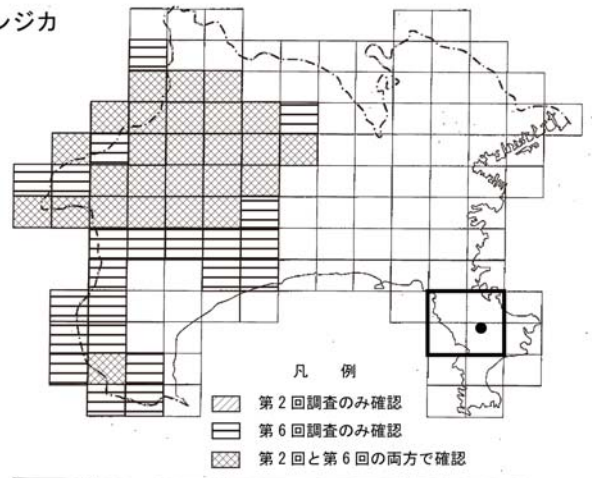
環境省ホームページ資料より作成

図 2-2-22 (1/2) 既存資料で確認された哺乳類の生息メッシュ図

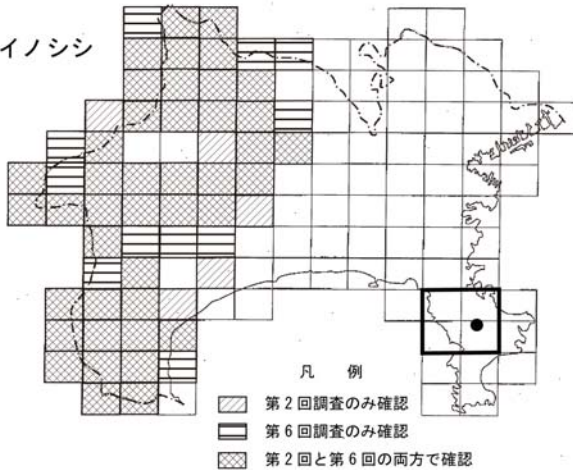
アナグマ



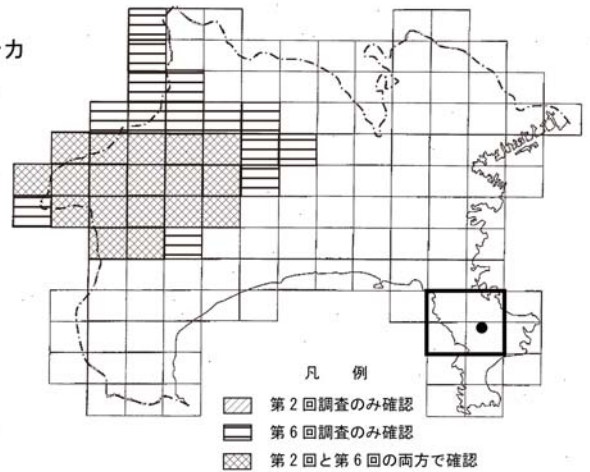
ニホンジカ



ニホンイノシシ



カモシカ



図中の●は実施区域、 は実施区域周辺が含まれるメッシュを示す。

環境省ホームページ資料より作成

図 2-2-22 (2/2) 既存資料で確認された哺乳類の生息メッシュ図

(b) 昆虫類

昆虫類については、「第3回自然環境保全基礎調査」(昭和59年度 環境庁)、
「第4回自然環境保全基礎調査」(平成2年 環境庁)、「第5回自然環境保全基礎
調査」(平成7~9年度 環境庁)において、それぞれ「みどりのたより No.2」
(昭和60年9月 環境庁)、「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」(緑の国
勢調査協力会)、「第5回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)'95 身近な生きも
の調査 セミの抜け殻データ総目録」(1998年7月 環境庁自然保護局 生物多
様性センター)に身近な生きもの調査としてまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された昆虫類を
表2-2-37に示す。また、ここでは、「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動
植物分布図)」(昭和56年 環境庁)で確認された種についても示す。

表2-2-37 既存資料で確認された昆虫類

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
ヤンマ	ギンヤンマ	第4回		
オニヤンマ	オニヤンマ	第2回、第4回		
トンボ	ハッチョウトンボ	第3回		
キリギリス	キリギリス	第3回		
コオロギ	アオマツムシ	第4回		
	マツムシ	第4回		要注意種
カメムシ	クマゼミ	第4回、第5回		
	アブラゼミ	第5回		
	ツクツクボウシ	第5回		
	ミンミンゼミ	第3回、第4回、第5回		
	ニイニイゼミ	第5回		
	ヒグラシ	第3回、第4回、第5回		
キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	第2回		
ミノガ	オオミノガ	第3回		絶滅危惧Ⅱ類
タテハチョウ	オオムラサキ	第3回、第4回	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧
	スミナガシ	第2回		要注意種
	アサギマダラ	第2回		
アゲハチョウ	アオスジアゲハ	第4回		
	オナガアゲハ	第2回		
	ミヤマカラスアゲハ	第2回		
セセリチョウ	アオバセセリ	第2回		要注意種
ハンミョウ	ハンミョウ	第3回		
コガネムシ	カブトムシ	第3回、第4回		
クワガタムシ	ヒラタクワガタ	第2回		絶滅危惧Ⅱ類
ホタル	ゲンジボタル	第2回、第3回、第4回		
	ヘイケボタル	第4回		準絶滅危惧

注) 環境省レッドリスト:「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物5 レッドデータブック 昆虫類 環境省編」
神奈川県レッドデータブック:「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」
「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」(昭和56年 環境庁)での確認種は、実施区域の周囲3kmで生息する種
について示した。

出典:「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」昭和56年 環境庁
「みどりのたより No.2」昭和60年9月 環境庁
「1990年 身近な生きもの調査 調査結果」緑の国勢調査協力会
「第5回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)'95 身近な生きもの調査 セミの抜け殻データ総目録」
1998年7月 環境庁自然保護局 生物多様性センター

(c) 両生類・爬虫類

両生類・爬虫類については、「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」(1988年 環境庁)、「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書(両生類・爬虫類)」(平成5(1993)年3月 環境庁自然保護局)、「生物多様性調査 動物分布調査報告書(両生類・爬虫類)」(平成13(2001)年10月 環境省自然環境局 生物多様性センター)にまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された両生類・爬虫類を表2-2-38に示す。また、ここでは、「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」(昭和56年 環境庁)で確認された種についても示す。

なお、「三浦半島の自然環境 -5万分の1自然環境図説明書- 横須賀市自然博物館編 1991年 横須賀市自然博物館」においても同様の両生類・爬虫類について報告がみられる。

表2-2-38 既存資料で確認された両生類・爬虫類

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ	第2回、第3回、第4回、第5回	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅰ類
ヒキガエル科	アズマヒキガエル	第3回、第4回、第5回		要注意種
アマガエル科	アマガエル	第3回、第4回、第5回		
アカガエル科	ヤマアカガエル	第3回、第4回、第5回		
	ウシガエル	第3回、第5回		
	ニホンアカガエル	第3回、第4回、第5回		絶滅危惧Ⅱ類
	トノサマガエル	第5回		絶滅危惧Ⅰ類
	ツチガエル	第5回		要注意種
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	第3回、第4回、第5回		要注意種
ヤモリ科	ヤモリ	第3回、第5回		
イモリ科	イモリ	第4回		絶滅危惧Ⅰ類
トカゲ科	トカゲ(ニホントカゲ)	第5回		要注意種
ヘビ科	アオダイショウ	第4回、第5回		要注意種
	タカチホヘビ	第5回		
	シマヘビ	第5回		要注意種
	ヒバカリ	第5回		準絶滅危惧
	ヤマカガシ	第5回		要注意種
クサリヘビ科	マムシ	第4回、第5回		要注意種
カナヘビ科	カナヘビ	第5回		
イシガメ科	クサガメ	第5回		
	イシガメ	第5回		絶滅危惧Ⅰ類

注) 環境省レッドリスト: 「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物3 -レッドデータブック- 爬虫類・両生類 環境省編」
 神奈川県レッドデータブック: 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」
 「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」(昭和56年 環境庁)での確認種は、実施区域の周囲3kmで生息する種について示した。

出典: 「第2回自然環境保全基礎調査(神奈川県動植物分布図)」昭和56年 環境庁
 「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 両生類・爬虫類」1988年 環境庁
 「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書(両生類・爬虫類)」平成5(1993)年3月 環境庁自然保護局
 「生物多様性調査 動物分布調査報告書(両生類・爬虫類)」平成13(2001)年10月 環境省自然環境局 生物多様性センター

(d) 鳥類

鳥類については、「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 鳥類」(1988年 環境庁)、「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 (鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら)」(平成6(1994)年3月 環境庁自然保護局 (財)日本野鳥の会)、「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」(平成16(2004)年3月 環境省自然環境局 生物多様性センター)にまとめられている。

それらの調査において、実施区域を含む10km四方の範囲で確認された注目すべき鳥類(神奈川県レッドデータブックに記載されている鳥類)を表2-2-39に示す。

また、猛禽類であるフクロウ及びアオバズクについては「三浦半島の自然環境—5万分の1自然環境図説明書— 横須賀市自然博物館編 1991年 横須賀市自然博物館」においても同様の報告がみられる。

表 2-2-39 既存資料で確認された鳥類

科名	種名	実施区域周辺	環境省レッドリスト	神奈川県レッドデータブック
フクロウ科	フクロウ	第3回、第6回		準絶滅危惧種
	アオバズク	第6回		絶滅危惧II類
ウ科	ウミウ	第3回		準絶滅危惧種
	ヒメウ	第3回	絶滅危惧IB類(EN)	準絶滅危惧種
チドリ科	タゲリ	第3回		絶滅危惧II類
シギ科	イソシギ	第3回		希少種
セキレイ科	キセキレイ	第3回、第6回		減少種
	セグロセキレイ	第3回、第6回		減少種
	ビンズイ	第3回		絶滅危惧II種
モズ科	モズ	第3回、第6回		減少種
ツグミ科	ルリビタキ	第3回		絶滅危惧II類
	トラツグミ	第3回		減少種
	アカハラ	第3回		減少種
シジュウカラ科	コガラ	第3回		絶滅危惧II類
ホオジロ科	アオジ	第3回		絶滅危惧II類
	クロジ	第3回		絶滅危惧I類
アトリ科	カワラヒワ	第3回、第6回		減少種
ツバメ科	ツバメ	第4回、第6回		減少種
カササビヒタキ科	サンコウチョウ	第6回		絶滅危惧II類

注) 環境省レッドリスト:「改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物2—レッドデータブック— 鳥類 環境省編」

神奈川県レッドデータブック:「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」

出典:「第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 鳥類」1988年 環境庁
「第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書 (鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら)」
平成6(1994)年3月 環境庁自然保護局 (財)日本野鳥の会
「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」
平成16(2004)年3月 環境省自然環境局 生物多様性センター